

山と電気の風景論 ②⑧

赤城山, 武尊 (ほたか) 山~上州, 義侠忠治と空っ風の山岳地帯~

セリングビジョン(株) 代表取締役 岡部 秀也

大和武尊伝説と関東平野へのご神体

上州(群馬県)の代表的山岳といったら筆者は、すぐに赤城山と武尊山を挙げる。両座を仰いだ侠客・国定忠治がいて、かかあ天下の風が吹き、山中にあって義理と人情が厚い旅籠の主と、支える気丈な女将がいる印象だ。両座とも独立峰で「独立世帯」で異彩を放っている。

武尊という北アルプス連峰の穂高を思い浮かべるが、どっこい、上州の武尊山は、歴史の重みがあるという。大和武尊(やまとたけるのみこと)の東征で武尊山を訪れたという伝説を根拠にしている。江戸時代に行者らが修験道を開設してから霊場となっている。

一方の赤城山は群馬県中央に聳える活火山。この山岳から関東平野が東京へ伸び広がっている。活火山のシンボルは火口湖・大沼。このカルデラ湖をもつ本山は榛名山、妙義山と上毛三山を形成する。赤城神社は大沼東岸と最高峰黒檜山にあり、関東一円には約300の末社を抱える神社。赤城神社と湖のご神体。赤城大明神は竜宮城のようなご神体。都心の神楽坂・赤城神社は伝統神楽が演じられていた。

赤城山<標高1828m>平成30年5月5日(初回:平成24年7月15日)

周回5.8km(駒ヶ岳登山口から黒檜山へ)、3時間27分、標高差467m。<登山バス往復:前橋駅⇄赤城山ビジターセンター利用>

赤城山は四年ぶり二回目である。今回は、周遊ルートの駒ヶ岳→黒檜山へと前回の逆ルートを進んだ。5月GWの快晴日を狙った。

大沼1200mから登るため標高はそこそこあるがあまり疲れない。ただし快晴で汗をかき熱中症に留意



赤城山頂上の看板は新調

した。また日焼け止め、紫外線防止のハット、サングラスを常備した。今回は山岳地帯に広がるアカヤシオの木々の紅花と新緑の芽吹きを感じ、大



大沼と、後方に地藏岳

沼の向こうの地藏岳、その奥に富士山、そして谷川岳、燧ヶ岳等を眺望しつつ真向かい武尊山の雄姿を望むことができた。

なお県立赤城公園の覚満園散策。30分ほどゆったり周遊できた。水鴨のツガイが沼地で小魚をついばむのどかな平原池の風景だった。年度初めにゆっくり足慣らしをするには最適のコースである。

【行程】

平成30年5月5日

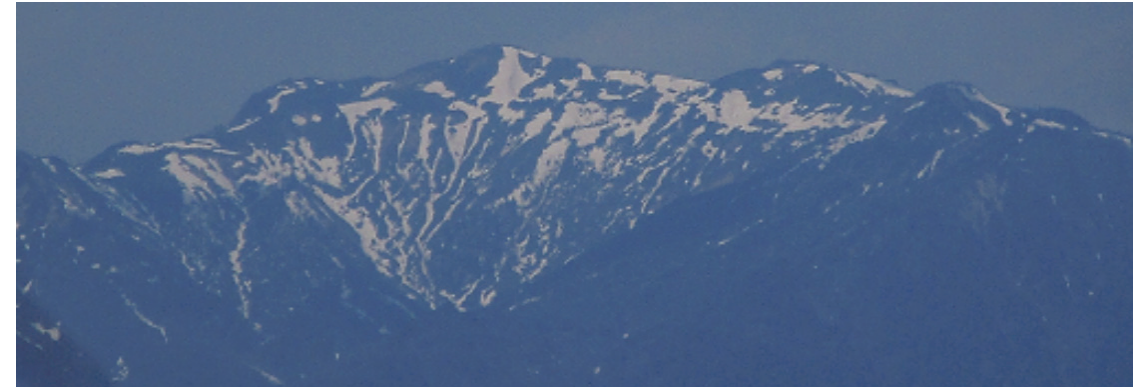
- 10:13 駒ヶ岳大洞登山口~森林浴をしつつアカヤシオ(紅)、タチツツミレ(紫)、ヤマザクラ(ピンク)、ヒメイチゲ(白)を立ち止まって見る。
- 11:00~11:08 駒ヶ岳(1685m)休憩。20人。頂上付近の木々は新芽が出たばかりの大タルミを歩む。木の階段と土道を進む。
- 12:00~12:15 黒檜山(赤城山)。頂上付近は家族連れ、団体ツアーもあり昼食休憩。
- 12:25~12:30 絶景スポットで武尊山、谷川岳、越後駒ヶ岳方面も撮影。
- 12:35 赤城山下山~切れた石が多く急坂で歩きにくい。猫岩近くになると引っ掻いたような岩石が目立つ。
- 13:28 黒檜山登山口着。
- 13:40 駒ヶ岳大洞登山口

武尊山<標高2158m>(平成26年7月13日)

往復7km, 5時間8分, 標高差918m裏見ノ滝



赤城神社には殿守、姫守が人気



赤城山・絶景スポットからの武尊山

コース往復。<上毛高原駅でレンタカー。武尊神社奥駐車場まで約1時間15分, 35km>

武尊山登山時は、時折り小雨もあったが、武尊神社の慈雨ということで参拝して、ダイナミックな登山開始。



山麓の静謐な武尊神社で安全登山祈願

最初は、沢水の唐松林道を歩み、須原尾根分岐から本格的な山道となる。針葉樹林帯を慎重に進み、手小屋沢避難小屋付近で補水し休憩。そこから険しい「行者ころげ」という鎖とロープを使って這っていく急登の難所が数か所あり、「ころがりやすい」ため油断できない。頂上付近になるとようやくなだらかになった。頂上では、ほかの団体ツアーの方々や登頂記念写真を撮りあって、健闘を称えあった。とはいえ、当日はガスっており視界は望めず、少し寒い。残念ながら少し休憩して、早々に退散した。

帰りは、下りの「行者ころげ」は滑りやすいため、さらに用心した。ペースがなかなか上がらないのは仕方がない。今日は、ピークハントを目的の一日であった。

上毛高原駅で岳友と上州蕎麦で山会談を楽しみ、地元サクランボ佐藤錦を味わった。

上毛高原駅で岳友と上州蕎麦で山会談を楽しみ、地元サクランボ佐藤錦を味わった。

【行程】

- 9:00 武尊神社、曇り小雨。
- 9:15 武尊沢林道終点駐車場から登山開始。
- 9:25 須原尾根分岐(剣ヶ峰山との分岐点)。
- 10:15~10:25 避難小屋武尊神社下降点。途中五分休憩。
- 岩場四ヶ所を越すと武尊山全容が開ける。
- 11:49~11:53 武尊山。
- 途中で五分休憩。
- 14:10 須原尾根分岐。



頂上はガスって、岳友・島矢氏と早々に退散

14:23 武尊沢林道終点駐車場着。

ミニ水力からバイオマスまで電力活用

両座ともに利根川水系で関東平野を下り太平洋に流れる。武尊山の周辺には裏見の滝、藤原ダム、奈良俣ダム、湿原、ブナ林、各種温泉がある。

武尊山麓の片品村付近には東京電力ホールディングスが運転する水路・調整池式の幡谷発電所(出力9000kW, 落差95m)と岩村発電所(19600kW, 落差158m)がある。導水路の総延長は10247mにもなる。取水は片品川、坪川(ひらかわ)である。岩室発電所から放出した水は片品川と合流し、上小屋発電所(出力19000kW, 落差116m)となる。

これら3つは90年以上も稼働している。当時は、黒部水力につながる革新的な水車・発電機開発と大がかりな工事だったようだ。

群馬県では出力数十kWのミニ水力も増えているが、赤城山の大沼用水も活用され、バイオマスエネルギーも電源になっている。また大沼に隣接する覚満淵湿原付近にはスキー場や県立赤城公園もあり自然の宝庫だ。付近で林野庁の補助金事業で利平茶屋ミニ水力22kWが近年稼働した。キャンプ場の負荷を賅い余剰電力を電力会社が購入している。発電コストは大変高くつくが環境に優しいPR効果がねらえるという。